

序 文

小池賢治先生・樋口透先生を送る

経済学部長 町 田 欣 弥

経済学部は2011年3月末で創設より、はや21年を経過することとなる。学部創成期から成長期に掛けての21年の間に大学を取り巻く環境は劇的ともいえるほど大きく変化してきた。そして、この変化の中を指導的立場として私たちとともに過ごし、経済学部の発展に尽力され、われわれ後輩教員の先導者的立場にあった先輩教員である小池賢治先生と樋口透先生のお二人が2011年3月をもって退職される。

この内のお一人である小池賢治先生は、1966年慶応義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了後、アジア経済研究所（経済成長調査部）に入所され研究活動を継続された。アジア経済研究所在籍中に、インドDelhi School of Economics、フィリピンAsian Institute of Managementへの留学を経験され、多くの研鑽を重ねられた。その後、アジア経済研究所地域研究部長、同研究所バンコク研究センター長を歴任されている。

そして、小池賢治先生は1999年4月に駿河台大学経済学部教授として就任され、すぐに学部の中心的存在として活躍された。就任翌年の2000年からは、それまでのご経験を活かし、二期4年間に亘り経済研究所長として、経済学部に対して大いにご貢献頂いた。とりわけ経済研究所の設立目的である“地域との結びつき”を実現し、大学と地域の良好な関係をさらに成長させるため「駿台・地域フォーラム」の立ち上げに大きな力を発揮された。研究所長を退任された後も、フォーラムにおける大学側の代表者として地域との交流の最前線で引き続きご尽力頂いた。教育面では、アジア地域経済を専門とされる先生のゼミナールや大学院研究室からは、多くのアジア地域諸国の留学生在が巣立っている。学部の教員組織の中では、後輩教員の道標を示すアドバイスを与えて下さる、良き先輩であった。

樋口透先生は、1967年に電気通信大学大学院電気通信学研究科修了後、財団

法人日本情報処理開発センターを経て、電気通信大学電気通信学部経営工学科の助手、さらに小樽商科大学教授を歴任され、1990年4月に駿河台大学経済学部教授として着任された。この間に、社会システムのシミュレーション方法論として注目されたシステム・ダイナミックスを日本に紹介した一人として、研究活動を続けられた。社会システムの研究者として成果を残されるとともに、同時にコンピュータの導入時期であり、コンピュータ初期の利用者として、情報システムの研究にも携わられ、当時のオフィス・オートメーション学会（現日本情報経営学会）等でも活躍されている。

経済学部開設時メンバーの一員として着任された後は、学部創成期である4年間に亘り経営情報学科の学科主任として本学部の礎作りに貢献されるとともに、情報科学センター長として本学の情報化の中心としても活躍された。また、教育者として情報処理産業界で活躍する多くの卒業生を送り出している。学部運営の中では、常に物静かな先生は、適時に適切な助言で我々に道を示して下さった。

異なった形ではあるが、小池先生、樋口先生のお二人は常に経済学部の方向性に良き影響を与え続けて下さった。両先生の長年に亘る多大なご尽力とご貢献に衷心より感謝を申し上げますとともに、今後のますますのご健勝、ご活躍を心より祈念いたします。